

ふっさふさの毛皮にまみれたいいい

M「さて、毎年恒例「年末年始、〇〇しよう」の展示テーマですが、今年は読みながらココロをふかふかの毛皮に包まれてもらおうかと」

T「暖かそうです(^^)」

M「・・・といっても実はこのテーマは3回目。前に作ったPOPがこんなにある！」

F「確か、展示棚にふかふかの布を敷いたって聞きましたよ？」

M「あーそれね。棚はふかふかになったけど、若干ホコリがね・・・。今回もやる？」

F「ホコリ・・・。検討します」

M「で、キミたちは動物飼ってる？飼ってた？」

F「子どもの頃にハムスター飼ってました！」

T「・・・私は金魚くらいで。あ、ゲームでハムスターを育成していました！」

M「なんだろう、時代は変わっても小学生の頃ってなんかハムスターを飼うのが流行るよね？と言っても私は『ハ〇太郎』の世代ではないのですが」

F「小さい小学生でも世話しやすいからでしょうか〜。でも寿命は短い」

T「私は逃げた友達のハムスターを掴んだら、目が飛び出して怖かったです(>_<)」

F「それは怖い・・・。そういえばMさんは超イヌ派ですよ〜」

M「そう。もう私の人生で犬を飼っていない時間の方が少ない。常に犬。犬最高!!一応猫も飼ってるんだけど、断然犬。」

F「何か飼ってみたい動物とかは？」

M「そりゃパンダよ!子パンダ抱えてる飼育員さんがうらやましくて仕方ないよー」

T「私は、ヒツジを飼ってみたいです」

M&F「毛刈りたいへんだよ!!ふかふかだけど!」

M「あ、でもオリジナル羊毛とか取れていいかも。でも家畜系は臭そうな気がする。そうだ、ここで犬好きなら誰でも知ってるニオイ系豆知識を教えてください〜」

F&T「ニオイ系？」

M「犬の肉球はポップコーンの香りがします♪」

F「そんな香ばしい香りが!？」

M「本当です!気になる人は嗅いでみて〜」

T「あの、犬飼ってないので嗅ぐ足がないです」

F「人様の犬の足の裏を突然嗅いだら変・・・というより怒られます」



←インスタは
ココ

<https://www.instagram.com/hondarake55>

←ブログはこっち <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



ホンダラケ

2021. 12.1

年末年始は毛むくじゃらん

今年もたくさん借りてくれてありがとう!
来年もよろしくね☆

『作家と犬』

平凡社編集部／編 平凡社 2021年刊



E/ハイ

あの文豪も、あの作家も、あの評論家も児童文学作家もみんな犬を飼っていたのです!それぞれの愛犬エッセイをまとめたこの本。愛犬との出会い、名付けエピソードそれから別れ。いたずらの数々に困ったやつだったと書きながら、その文章には愛犬への愛しさがにじみ出ています。書き手の方々は故人の方も多く、中高生には馴染みのない名前も多いかもしれませんが、巻末に作家のプロフィールがありますので、作品を探してみてください。実際の作風と愛犬へのデレとのギャップを発見するかも?

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「2021年ベストセラー」。

その1年に売れた本を見れば、どんな1年だったかわかる!と仰る人もいますが……

さてさて、どんな本が並ぶのかしら～。

『推し、燃ゆ』 宇佐見りん／著

河出書房新社 2020年

高校生の山下あかりは、授業にも周りにもついていけず、最終的に病院を受診すると、2つの診断名を持っていました。しかしそんな彼女にも唯一の救いが、推しの上野真幸君でした。だが、生きていく上で背骨のような存在の真幸君がファンの女性を殴ったというニュースにより炎上……。この本は高校生ならではの悩みもたくさんあるので、ぜひ読んでみて下さい。



F/ウサ

P.N. クロエ (高校2年生)

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介し

『鳥はなぜ鳴く？』

松田道生／著

『ホーホケキョの科学』 理論社 2019年

春になれば聞こえてくる鶯のさえずり。この本は、日本人が古くからなじんできた鶯を、主に鳴き声について解説したものです。

さえずりの間合い、音量、声紋など、その調査は科学捜査なみ。いつ鳴くのか、なぜ鳴くのか、自由なようで、実は合理的な理由に基づいているのです。これを読めば、次の春には鶯のさえずりが違って聞こえるかもしれませんよ。



488.9/19

新着図書 Pick Up

『文豪中学生日記』

小手鞠るい／著 2021年刊 あすなろ書房

主人公の西城春希は、文章を書くことが好きな中学生。新しいことを始めようと思立った春希は、一年間、日記を書きつづけることにした。

日記と詩を交えて綴られる、春希の日常生活の苦悩や友人関係、進路、SNSの恐ろしさ——

主人公が、体験する良いことも苦しいことも、自分の糧にして成長して未来へ向かっていく姿を描いています。1月から始まり12月まで、主人公が届けることばも楽しめる作品です。



F/コデ

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『山月記』

中島敦／著 2014年刊 海王社文庫

「嗤ってくれ。詩人に成りそこなって虎になった哀れな男を。」

今回紹介するのは、高校の教科書にも登場する『山月記』。物語の舞台は唐の時代の中国。旅の道中、突然、目の前に現れた「人食い虎」は、かつての友人、李徴^{りちゆう}だった。幼いころから優秀だった彼は、自分の詩人としての才能の平凡さを認めることをおそれていたという——

虎に姿を変えてしまった李徴が語った後悔と懺悔、虎になってから人間の自分が消えていく恐怖、友との再会と別れが描かれた作品です。『山月記』のほか、『李陵』など3編を収録。



F/ナカ